

平成29年度 公益財団法人大分県体育協会第1回理事会

日 時：平成29年5月11日（木）14：00～

会 場：大分県消費生活・男女共同参画プラザ[アイネス]
2階大会議室

理 事

出席者 広瀬 勝貞 工藤 利明 井上 倫明 安部 亮 安部 省祐
(24名) 大場 俊二 櫻井 康弘 土谷 忠昭 永田 佳也 牧 和志
松本 悠輝 蓑田 智通 阿部 俊二 阿部 昭一 今富 寛二
衛藤 賢 小幡 龍也 桑野桂一郎 佐藤 彰倫 白水 厚二
樋口 紅史 廣瀬 宏一 山崎 隆典 渡邊 美穂

欠席者 麻生 益直 上野 浩光 首藤 奉文 詫摩 英明 穴井 俊一
(6名) 梅田 智行

監 事

出席者 鍵矢 栄典 工藤 哲郎 矢部 正秋
(3名)

参 与

出席者 川谷 紘基
(1名)

資格確認 伊藤総務部長が出席者27名で、本会定款第36条に従い、定数の過半数の出席者であるため本会が成立することを報告した。

1 開会のことば

伊藤総務部長が開会のことばを述べた。

2 出席者等の紹介

佐保事務局長が出席者等のお名前を読み上げ、紹介を行った。

3 議長選出

役員改選直後で会長不在の為、本会理事会規定6条の2項「理事全員の改選直後の理事会における議長は出席した理事の中から互選された者がこれにあたる」にのっとり、事務局案である広瀬理事を議長に選出することが全会一致で承認された。

以降は、広瀬議長による進行。

4 議事

以下の議事について、佐保事務局長より説明された。

- 議案1 平成29・30年度代表理事・業務執行理事の選定について
- 議案2 平成28年度事業報告について
- 議案3 平成28年度収支決算について
- 議案4 平成29・30年度財務委員会委員長及び大分県スポーツ少年団
本部長・副本部長について
- 議案5 退任表彰について
- 議案6 平成29年度強化指定の追加について

【議案1 平成29・30年度代表理事・業務執行理事の選定について】

それでは、議案1の平成29・30年度公益財団法人大分県体育協会代表理事、業務執行理事の選定について、御説明いたします。

レジュメの2ページをお開きください。4月11日（火）の臨時評議員会において、加盟競技団体が互選により推薦する12名、加盟地域スポーツ団体が互選により推薦する6名、加盟学校体育団体が互選により推薦する2名、合計20名の理事候補者と3名の監事候補者を選出していただきました。また、4月24日（月）の書面決議による臨時理事会において、学識経験者区分理事候補者10名を選出いたしました。5月1日（月）の書面決議による役員等推薦委員会で評議員会及び理事会で選出された30名の理事候補者及び3名の監事候補者を正式な候補者として承認し、本日午前中に開催された臨時評議員会で平成29・30年度役員として承認されました。2・3ページ記載の皆様方が平成29・30年度公益財団法人大分県体育協会理事・監事の方々でございます。

定款の第24条2項には、「理事のうち1名を会長とする。また、会長を除き4名以内を副会長、1名を専務理事、10名以内を常務理事とすることができる。」とございます。また、第25条の2項には、「会長、副会長、専務理事及び常務理事は、理事会の決議によって、理事の中から選定する」とございますことから、本日は、会長1名・副会長4名以内の代表理事と、専務理事1名・常務理事10名以内の業務執行理事を選定していただきたいと思っております。御審議よろしく御願いたします。

《事務局案提案に異議なしとの声が挙がった》

それでは、事務局案を御説明いたします。案の名簿の読み上げをもって、提案とさせていただきますと思っております。

- 会長 広瀬勝貞（ひろせかつさだ） 県知事
- 副会長 工藤利明（くどうとしあき） 県教育長
- 同じく 麻生益直（あそうますなお） 八鹿酒造株式会社代表取締役社長
- 同じく 上野浩光（うえのひろみつ） 一企業一スポーツ推進協議会会長
- 同じく 首藤奉文（しゅとうほうぶん） 市長会代表
- 専務理事 井上倫明（いのうえみちあき） 県教育庁体育保健課長
- 常務理事 安部省祐（あべせいゆう） 県バスケットボール協会会長
- 同じく 安部 亮（あべりょう） 大分合同新聞社運動部長
- 同じく 大場俊二（おおばしゅんじ） 県サッカー協会副会長
- 同じく 永田佳也（ながたよしや） 大分市体育協会理事長
- 同じく 櫻井康弘（さくらいやすひろ） 県中学校体育連盟会長
- 同じく 詫摩英明（たくまひであき） 県体操協会副会長
- 同じく 土谷忠昭（つちやただあき） 県スポーツ推進委員協議会会長

同じく 牧和志（まきかずし）県スポーツ少年団指導者
同じく 松本悠輝（まつもとゆうき）松本内科循環器科クリニック院長
同じく 蓑田智通（みのだともみち）県高等学校体育連盟会長
以上、会長1名、副会長4名、専務理事1名、常務理事10名を御提案いたします。

《質疑応答無し。全会一致で承認された。》

公益財団法人大分県体育協会会長 広瀬勝貞 大分県知事 あいさつ

ただ今、また再び会長になった、広瀬勝貞でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

実は正直昨年の国民体育大会の本当に無様な結果の責任をとって今回は辞任しようかと思っていたところではありますが、昨年あの後皆様は熱心にどこが悪かったのか、そしてそのためにはどうすれば良いかという議論をいただきました。そしてまた新学期あるいはまた新しい事業年度が始まり、現場では監督・コーチはじめ、皆様方が新しい方向に向かっての動きが始まっているという時であり、ここでまた逆に色々混乱を引き起こすよりも、そういう風に現場でがんばっておられる皆様方のバックアップをしながら、本当に私達も県内の競技力向上に努めねばならぬと思い、引き続きやらせていただくことに同意させていただいたわけでございます。ご理解のほどよろしく申し上げます。

ということで昨年来の結果を踏まえて、体育協会の理事会でも大変熱心に反省していただきましたが、新しくしなければならぬことはなんだろうかということも議論させていただいたところであります。その中で今年度のポイントは、一気にまた10位台と言っても無理だろうと、難しかろうということでも寧ろしっかりと地道に底力をつけていこうという意味で、総合順位20位台ということで提案させていただいたわけでありまして。20位台前半でも後半でも、とにかく底力をつけてなんとか元のかたちに戻っていこうということでございます。そのためにまずは、当面は20位台を目指そうじゃないかということにしたわけでございます。色々なところで是非皆さんとともにこの目標を掲げていこうと思うところであります。

もちろん我々の仕事は、国体でしっかりと良い成績をとる、選手・競技力を向上して国体をはじめ色々な大会で良い成績をとるということだけではなくて、そもそも県内におけるスポーツの普及振興というところがあるということも当然であって、そのために本当に、競技会の担当の理事のお力、スポーツ少年団あるいは総合型地域スポーツクラブの整備等々普及の為の努力もしていただきたいと考えております。やはりスポーツの振興という面で強い大分でなければならぬとそういう風に考えるわけでございます。新聞にも出ていましたけれども、昨日ラグビーワールドカップの枠組みの抽選会に私も立ち会っていたのですが、その抽選会の後に、ラグビーワールドカップの会長がご挨拶し、色々な事を言っていましたけれども、とにかく前回の大会で日本チームの戦いが世界中の感動を呼んだと、堂々強豪の仲間入りをしたと、やはり強い日本というものを賞賛しておりました。その後、森喜朗さんが、名誉会長なのですがご挨拶いただき、今褒めてくれた会長は日本がラグビーワールドカップのホームに手を挙げた時に自分の所に来て、本当に大丈夫なのかと、開催しても人が集まらないぞと言って本当に心配して、そう言われたことを今でも覚えていると、その会長から今や強豪国の仲間入りをしたといわれて涙が出るほど嬉しいと、自信を持って開催することができるし多くの国民が興味を持ってくれるようになったということも言っており、しみじみとやはり、我々も国体で頑張らないと県民にスポーツを普及と言っても空言に聞こえてしまうと言う気がしたのでございます。やはり何が何でも大分は国体で上昇気流をつくらなければならない。是非新しい体制の皆さんの力で、少しでも前に進みたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

本会定款第33条2項「理事会の議長は会長とする」とある為、引き続き広瀬会長に議長をお願いした。

【議案2 平成28年度事業報告について】

それでは、議案2の平成28年度事業報告につきまして御説明いたします。レジュメの5ページをご覧ください。報告につきましては、内容が多いため抜粋して報告させていただきます。

まず、5ページの上段、理事会・評議員会でございます。28年度は、定款等に定められています評議員選定委員会、役員等推薦委員会、臨時評議員会、定例の理事会、定時評議員会等を資料記載の日程により開催し、本会の役員の変更や運営に関わる事項を御審議いただきました。

6ページから7ページ上段にかけては、九州ブロック大会及び国民体育大会関係でございます。第36回九州ブロック大会夏季大会、秋季大会は宮崎県を主会場に開催されました。本県選手団は夏季・秋季大会に31競技89種別に出場し、57の代表権を獲得いたしました。

第71回国民体育大会本大会は岩手県で開催され、大会には、監督選手427名が出場いたしました。結果は天皇杯順位第38位で、目標を大きく下回る結果となりました。6ページ下ですが、第71回国民体育大会反省会・工秀秀明スポーツ奨励賞授与式・懇談会を開催いたしまして、チーム大分の一層の結束を図るとともに、第72回国民体育大会での奮起を誓い合いました。

7ページ中段からは、専門委員会であります競技向上委員会関係でございます。強化指定委嘱状交付式、激励訪問、競技力向上委員会の開催に取り組みました。

8ページから10ページ上段は、スポーツ医科学委員会関係でございます。スポーツ医科学を通じた競技力の向上に向けて、各種事業に取り組みました。また、平成28年度は、より効果的なスポーツ医科学の活用に向けて、組織のあり方について審議を行ったところです。

10ページ中段から13ページ上段にかけては、スポーツ少年団関係でございます。資料記載のとおり大変多くの諸会議、研修会、大会等を実施いたしました。登録者数については、本県は全国で唯一、2年連続で前年度を上回りました。12ページ上段105にある第25回大分県スポーツ少年団駅伝交流大会は、本県独自で開催している事業であり、昨年度は混成の部を新設した結果、参加団も増加いたしました。このような魅力ある事業をさらに充実させながら、関係機関と連携して今後のスポーツ少年団活動の活性化に繋がる取組を続けたいと考えております。

13ページ上段119にあるその他本会主催会議の中の、加盟競技団体ガバナンス研修会ですが、この研修会は一昨年度から開始した研修会でございます。加盟競技団体指導者77名出席のもと、日本スポーツ仲裁機構から講師を招き開催いたしました。競技団体において、社会から信頼される組織運営は、スポーツ振興を図る上での最重要課題でございます。本年度は受講対象者を替えるなど、内容を検討しながら継続して開催したいと考えています。

13ページ下段から14ページ上段にかけては、表彰関係事業でございます。御覧のとおり平成28年度も多く団体、個人を表彰することができました。

14ページ中段は、募金関係事業でございます。役員の方々をはじめ、県民の皆様や企業など、各方面から御協力をいただき、法人会員としまして83件、236万円、個人会員としまして、153件、141万5千円、合計、236件、377万5千円の賛助会費をいただきました。これは、前年度を15万5千円上回る金額でございました。

事業報告は以上でございます。御審議の程よろしくお願いいたします。

《質疑応答無し。全会一致で承認された。》

【議案3 平成28年度収支決算について】

それでは、議案3の平成28年度収支決算につきまして、御説明いたします。16ページから29ページが決算資料でございますが、かなりの量になりますので、30ページの後ろに挟んでおります白紙でA3縦の資料により提案させていただきたいと思います。

説明の前に、本会の会計は大分県スポーツ振興事業、大分県スポーツ少年団事業、大分県スポーツ普及・表彰事業の3つからなる公益法人会計と、事務局運営に係る法人会計の合計4つに分かれていますことを申し上げます。

表の見方ですが、ローマ数字Ⅰの一般正味財産増減の上段が事業活動収入、いわゆる収入の部です。これらの収入を各会計に振り分けています。振り分けの詳細は各事業ごとの正味財産増減計算書に記載してございます。下段の事業活動支出が支出の部、収支の差額が3の事業活動収支差額となっています。また、一番下のローマ数字Ⅱの正味財産期末残高は、本会の財産残高を示しています。

それでは、予算額と決算額の増減が大きいものなど、主な項目について説明いたします。

まず、事業活動収入です。5行目の賛助会員会費ですが、決算額は377万5千円で予算額との差異は27万5千円でした。これは賛助会員の増加によるものでございます。6行目のスポーツ少年団登録料ですが、決算額は826万円で予算額との差異は17万円でした。これは、事業報告で説明いたしました登録数の増加によるものです。

15行目、国民体育大会参加費ですが、決算額は1億1千836万5千142円で予算額との差異は351万29円でした。これは、九州ブロック大会や国体への選手参加費を多めに予算計上したことによるものでございます。

19行目、指導員養成講習会費ですが、決算額は105万3千484円で予算額との差異は63万4千484円でした。これは、委託による養成講習会数の増によるものです。

45行目、スポーツ振興協力金ですが、決算額は656万1千987円で予算額との差異は16万5千513円でした。これは、ゴルフ場利用者からいただいているスポーツ振興協力金の抛割割合の変更によるものでございます。

48行目、指定正味財産からの振替額ですが、決算額は33万3千174円で予算額との差異は39万6千826円でした。これは、工藤秀明奨励賞の表彰者が少なかったことによるものです。

事業活動収入合計は、決算額は2億7千199万1千400円となり、予算額との差異は328万6千288円の減収でした。

次に、事業活動支出でございますが、公益法人会計の大分県スポーツ振興事業、大分県スポーツ少年団事業、大分県スポーツ普及・表彰事業と、法人会計を線で区分しています。

まず、55行目の大分県スポーツ振興事業です。57行目、選手強化補助とある項目ですが、これは県から補助金としていただいている「スポーツ大分パワーアップ事業」の事業費で、決算額は予算額と同額の1億1千万円でございます。内訳は、特に58行目の拠点強化対策費、60行目のスポーツ医科学サポート対策費において、予算額を上回る決算額でした。これは、第71回国民体育大会に向けた重点的な強化によるものでございます。

63行目、国民体育大会参加費ですが、先ほど説明した事業活動収入と同じ理由によるもので、金額も事業活動収入と同額となっています。

74行目、日本体育協会委託金ですが、これも先ほど説明した事業活動収入と同じ理由によるものです。

79行目、※印の上記3事業の事業管理費ですが、3事業それぞれに割り振っているものをまとめて示しているものでございます。決算額は2千191万5千362円で予算額との差異は77万9千726円でした。これは、諸経費の節減によるものでございます。

83行目、事業活動支出合計の決算額は2億7千252万7千368円となり、予算額との差異は408万1千137円でした。

84行目の3事業活動収支差額は、各事業ごとの収支差額を示しています。スポーツ振興事業の収支差額決算は195万9千308円の赤字、スポーツ少年団事業の収支差額決算は100万7千191円の黒字、スポーツ普及・表彰事業の収支差額決算は23万7千852円の黒字、法人会計の収支差額決算は17万8千297円の黒字、したがって、89行目、一般正味財産増減における収支差額決算は、53万5千968円の赤字でございます。

91行目、ローマ数字Ⅱの正味財産期末残高決算額は3千474万9千337円でございます。

以上が、平成28年度決算につきましての説明でございます。御審議よろしくお願いいたします。

(続いて、矢部正秋監事から監査報告がなされた。以下、報告内容。)

それでは、監査報告をさせていただきます。

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの理事の職務執行状況を監査いたしました。その方法及び結果についてご報告します。まず、監査の方法及びその内容でありますがお手元の監査報告書に記載のとおりであるので、お目通し頂ければと思います。2の監査意見でございますが、理事の職務の執行に関して不正の行為等は認められませんでした。また計算書類及びその不足明細書並びに財産目録の監査結果であります。法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成29年5月9日 公益財団法人大分県体育協会

監事 矢部 正秋 同じく 東 正吾

以上でございます。

《質疑応答無し。全会一致で承認された。》

【議案4 平成29・30年度財務委員会委員長及び大分県スポーツ少年団本部長・副本部長について】

それでは、議案4の平成29・30年度財務委員会委員長及び大分県スポーツ少年団本部長・副本部長について、御説明いたします。

本会には、専門委員会として、財務委員会、スポーツ少年団、競技力向上委員会、スポーツ医科学委員会がございまして、それぞれに規程が定められています。全ての専門委員会において、委員の任期は2年となっており、本年が改選期となっておりますが、スポーツ少年団の委員は市町村スポーツ少年団の役員から選出された者、他の委員会の委員は本会会長が委嘱するとなっておりますので、審議の対象ではございません。本日御審議いただくのは、財務委員会の委員長と、スポーツ少年団本部長・副本部長でございます。

財務委員会規程によりますと、第5条に「委員長は、本会理事会において選出し、本会会長が委嘱する。」とございます。また、スポーツ少年団設置規程第9条及び第10条に、本部長及び副本部長は、委員総会でこれを推挙し、本会理事会の承認を得て本会会長が委嘱するとあります。

レジュメの31ページを御覧ください。平成29・30年度財務委員会の名簿でございます。太線で囲っております委員長(案)の欄を御覧ください。委員長として、先程副会長に選定されました上野浩光(うへのひろみつ)新日鐵住金株式会社大分製鐵所執行役員所長を御提案いたします。

32ページをご覧ください。平成29・30年度スポーツ少年団役員の名簿でございます。太線で囲っております本部長（案）と副本部長（案）の欄を御覧ください。本部長として、先程常務理事に選定されました牧和志（まきかずし）氏を、副本部長として、加藤寛章（かとうひろあき）県教育庁体育保健課体育・スポーツ振興監、同じく、竹内 進（たけうちすすむ）県スポーツ少年団指導者協議会副会長、同じく、園田真治（そのだしんじ）県小学校体育研究会会長、同じく、永田佳也（ながたよしや）大分市企画部スポーツ振興課長、同じく、廣畑 功（ひろはたいさお）中津市教育委員会教育長を御提案いたします。

なお、33ページには競技力向上委員会、34ページにはスポーツ医科学委員会の名簿を記載してございます。後ほど御確認いただきたいと思っております。それでは、財務委員会委員長、スポーツ少年団本部長・副本部長の御審議方、お願いいたします。

《質疑応答無し。全会一致で承認された。》

【議案5 退任表彰について】

先ほどは、議案4の御承認ありがとうございました。御承認をいただきましたので、議案1で御承認いただいた牧和志（まきかずし）常任理事の所属役職を県スポーツ少年団本部長に改めさせていただきます。

それでは、議案5の退任表彰について、御説明いたします。レジュメ35ページをご覧ください。

本会表彰規程には、退任役員等に対する表彰規定はございませんが、これまで、本会役員等として本会の発展にご尽力されました方をその功績を讃えまして、退任時に感謝状を贈呈し、表彰しております。

対象者としましては、2の（1）から（3）にございますように、本会役員等を2期以上連続して務めた者、本会役員で本会の発展に功績（通算6年間以上）があった者、その他特別な事情により顕彰の必要が生じた場合は理事会に諮り決定するものとしております。

今回の候補者でございますが、平成23年5月から平成29年5月まで、3期6年間本会常務理事を務められました、玉田輝義（たまだてるよし）様と土江晃弘（つちえあきひろ）様が、同じく、参与を務められました、川谷紘基（かわたにこうき）様が該当いたしますので、お諮りするものでございます。御審議の程よろしくお願い申し上げます。

《質疑応答無し。全会一致で承認された。》

【議案6 平成29年度強化指定の追加について】

議案5の御承認ありがとうございました。感謝状につきましては、本会終了後、広瀬会長からお渡しをさせていただきます。

それでは、議案6の平成29年度強化指定の追加について、御説明いたします。レジュメ36ページをご覧ください。

県教育委員会体育保健課にあります競技力向上対策本部では、アスナビ・チーム大分プロジェクトとしてトップアスリートの就職支援事業を行っております。県体育協会では、企業内での支援体制を充実させるとともに、国体でのチーム大分の中心選手として活躍が期待される選手の競技力を図るため、この事業によりトップアスリートを採用した企業を強化指定しているところです。本年度の強化指定団体については、3月の平成28年度第4回理事会でお諮りし、4月20日の委嘱状交付式で委嘱したところですが、こちらに記載の5社につきましては、平成29年度4月1日の採用予定であったことから、3月の理事会で諮っておりませんでしたので、追加での指定について御提案いたします。御審議方、よろしく願いいたします。

《質疑応答無し。全会一致で承認された。》

5 報告事項

- (1) 平成29年度事業報告について
- (2) 各種大会成績について

以下、佐保事務局長の説明。

それでは最初に報告事項(1)の平成29年度事業報告について御説明いたします。37ページをお開きください。本年度に入りましてからの本会関係の会議や行事などでございます。主要な所のみ抜粋して御説明させていただきます。

4です。4月11日(火)に臨時評議員会を開催し、平成29・30年度理事・監事候補者を選出いたしました。

7です。4月14日(金)に加盟競技団体事務局長会議を開催いたしました。本年度の運営方針、国民体育大会に係る強化費等補助金の事務手続き等について説明させていただきました。

4ページ9です。4月20日(木)に強化指定委嘱状交付式を開催し、89団体、大分県競技力向上スーパーコーチ6名に対し、広瀬会長が委嘱状を交付いたしました。日田高校ボート部監督の小川先生の力強い決意表明、大分県高体連蓑田会長の頑張ろう三唱により、愛媛国体での20位台上位に向けて気持ちを一つにすることが出来ました。

また、同日の午後は、本年度から新たに、強化指定校・団体の指導者を対象とした拠点指導者研修会を開催しました。朝日大学の白石豊先生に「勝つために何をすべきか」と題して講演をしていただき、指導者の資質向上を図ることができたと考えているところです。

10です。強化指定委嘱状交付式翌日から強化指定校激励訪問を開始し、学校長、監督、選手を激励させていただきました。昨日10日に激励訪問が終了したところでございます。

13です。4月26日(水)に書面決議によって臨時理事会を開催し、学識経験者区分理事候補の選定及び評議員選定委員会委員の変更について審議・決定いたしました。

14です。4月27日(木)に評議員選定委員会を開催し、評議員の変更を承認していただきました。

15です。5月1日(月)に書面決議によって役員等推薦委員会を開催し、役員改選に伴う理事・監事の改選について審議・決定し、本日午前中の臨時評議員会に付議することとなりました。

16です。5月8日(月)に大分県スポーツ少年団委員総会を開催し、平成29年度役員(案)、平成28年度決算報告(案)等について審議・決定いたしました。平成29年度事業報告は以上でございます。

続きまして、報告事項(2)の各種大会成績について説明いたします。39ページをお開きください。3月2日から5月7日までの成績です。中学生は全国大会ベスト8以上、社会人・高校生は九州大会ベスト4以上・全国大会ベスト8以上を掲載しています。本日は、国際大会で入賞、九州・全国大会で優勝した選手・チームについて紹介いたします。

39ページ陸上ですが、2017テグ世界マスターズ室内陸上大会男子35～39歳走り幅跳びで日田市陸上競技協会の尾熊利明(おぐまとしあき)選手が優勝しました。

第70回全九州都市対抗陸上大会男子総合で大分市が、男子100mで大分アスリートクラブの永沼賢治(ながぬまけんじ)選手が、男子400mで福岡大学の松清和希(まつきよかずき)選手が、男子800mで福岡大学の加藤健吾(かとうけんご)選手が、男子1500mで大分市消防局の宮本剛志(みやもとつよし)選手が、女子200mで大分雄城台高校の兒玉芽生(こだまめい)選手が優勝しました。

40ページ自転車ですが、平成28年度全国高等学校選抜自転車大会男子2万4000mポイントレースで日出総合高校の小林右京(こばやしうきょう)選手が優勝しました。

41ページカヌーですが、第27回府中湖カヌーレガッタ、ジュニア男子1000mカヤックペアと200mカヤックペアで高田高校が、ジュニア男子1000mカナディアンペア楊志館高校と大分豊府高校の混成ペアが優勝しました。

その下のボートですが、第62回中日本レガッタ女子高校ダブルスカルで日田三隈高校と日田高校の混成チームが優勝しました。

その下の空手道ですが、プレミアリーグ、ロッテルダム大会女子個人形で大分市消防局の大野ひかる選手が2位に入賞しています。

42ページのフェンシングですが、第41回全国高等学校選抜フェンシング大会男子フルーレ団体及び第36回大垣フェンシング選手権大会男子の部で別府翔青高校が優勝しています。大垣フェンシング選手権大会では大分豊府高校が2位に入賞しており、上位を独占しました。

その下の柔道ですが、平成29年度全日本選抜柔道体重別選手権大会女子78kg級で本県出身の梅木真美(うめきまみ)選手が優勝しました。

最後にライフル射撃ですが、全九州ライフル射撃選手権大会成年男子エアライフル立射60発で九州乳業株式会社の三浦哲(みうらてつ)選手が、少年女子・成年女子エアライフル立射40発で由布高校の工藤真帆(くどうまほ)選手が優勝しました。

春季ライフル・ピストル射撃広島大会男子50mライフル伏射60発及び男子50mライフル3姿勢120発で大分市役所の磯部直樹(いそべなおき)選手が、女子エアピストル立射40発で大分大学の山田愛(やまだあい)選手が優勝しました。

その他紹介できませんでした成績につきましては、資料記載のとおりでございます。

以上で報告事項(1)から(3)の説明を終わります。

その他紹介できませんでした成績につきましては、資料記載のとおりでございます。

以上で説明を終わります。

(広瀬議長が強化指定校訪問の様子について井上専務理事に伺った。)

井上専務理事

私のほうからご説明させていただきます。

体育協会の行事についてであります。県体育協会と県体育保健課合同で強化指定校の激励訪問を行いました。学校では当然校長先生、それから強化指定部の選手等が私達の激励を受け、その感想には、もちろん決意表明というものがありますが、国体に向けて昨年のいわて国体の不振をなんとしてもチーム大分の力でえひめ国体で浮上させるという力強い決意表明を行って、それから、生徒・選手の皆さん方も県体育協会の強化指定部として身が引き締まる思いということも合わせて感想を述べておりました。4月の21日から昨日まで手分けをしながら全県をまわったわけでございます。

簡単でございますがこれで終わります。

広瀬議長

やり方を変えているのですか？やり方というのは、教え方や強化のやり方であります。何としても頑張るぞというのには良いですが、どこが悪くてどう変えていこうというようなものはありましたか？

井上専務理事

例えば昨年末、インターハイでの少年の力が大変よかったのですが、インターハイの力が国体まで継続し切れなかったというのはこれは事実でございまして、そういったことも受けてバレーボールでしたが、夏のインターハイが終わった直後に九州ブロック大会がございまして。そしてまた九州ブロックが終わり次第、国体という風になる訳であります。インターハイでの力の入れ方、その疲れが残ったままブロック大会に行ってしまったというような反省に基づき、もちろんインターハイも頑張っていくのでございますが、ブロック大会については1番で通らなくても国体まで力を温存させるというような戦略を立てている、昨年の反省に基づいたそのような戦略を立てているというような話もございました。以上でございます。

広瀬議長

対外試合をした方が良いのではないかと、コーチを招いたほうが良いのではないかとという話になっており予算も組んでいる筈です。そこに関してもう少し詳しく説明いただきたいです。

井上専務理事

例えばカヌー競技でございまして、全国的に有名な指導者を既にこちらの現場に来ていただき、一ヶ月に一度来てもらうのでございますが、選手それから監督に色々なアドバイスをしてくれております。一ヶ月に一度来て宿題を出してまた一ヶ月後に来ていただいてその成果を見ていただく。そういったことを既にカヌー競技では行っております。

《その他質疑応答なし》

(3) 第72回国民体育大会に向けた競技力向上対策について

以下、佐保事務局長の説明

43ページを御覧ください。昨年度の岩手国体の結果を踏まえ、3月の平成28年度第4回理事会において、競技力向上対策について御議論をいただきました。この資料はその時のものですが、今回の38位の要因として、資料上の右に示していますように、団体競技の不振、インターハイ活躍種目の不振、3倍競技の不振、強化体制の形骸化が上げられました。

これらの要因を解決する対策として、一つ目は、「主力競技の再構築による安定的な得点獲得」、二つ目は、「団体競技の重点的な強化」、三つ目は、「指導体制の強化」、四つ目は、「競技団体組織の強化」です。

44ページをお開きください。今後の強化による得点の見通しについての資料です。短期的な戦略として、今年の愛媛国体、来年の福井国体で「チーム大分」が復活を成し遂げるため、重点強化競技をグラフ下にある5つの分類に分けて整理し、得点の見通しを示しました。

「有望団体競技」、「旧主力競技」、「安定競技」、「戦力充実競技」、「主力競技」として有望競技を分類いたしまして、重点的な予算配分等により、短期戦略として復活を成し遂げたいと考えております。特に、有望団体競技において、段階的に得点力を向上させることにより、本年の愛媛国体で20位台上位、来年の福井国体で10位台へとステップアップを図りたいと考えております。

45ページをお開きください。これまで及びこれからの取り組みについてです。一つは、岩手国体以降の団体競技の強化についてですが、競技得点の獲得増が期待される団体競技において県外遠征を実施したり、優秀チームを招聘して強化を図っているところです。

二つ目は、戦力分析班の設置についてです。主に対戦型競技団体は戦力分析班を設置し、各種大会に競技団体及びチーム関係者を派遣し、国体等で対戦が予想される都道府県チームの分析を行います。

46ページをお開きください。特に環境（天候や形状）に勝敗が左右される競技については、九州ブロック大会や愛媛国体の会場視察を行い、情報収集することによりメンタル面のサポートを行います。

三つ目は、日本代表コーチ等を経験した指導者をアドバイザーコーチとして配置し、一層の競技力の向上を図ります。

以上のことに、特に、取り組んでいるところです。

47ページをご覧ください。全国高校選抜大会、九州高等学校新人大会及び選抜大会の平成27年と28年を比較したものです。全国選抜大会を見ると、全体としては大きく変わっていませんが特に団体の優勝数が1から4となっています。昨年はインターハイの成績が例年より良い成績でしたが、その学年の全国選抜の成績が変わらないということは拠点のチーム力は例年と変わっていないと判断されます。つまり、チャレンジできる位置にいるということです。

九州大会を見ると、個人は減っていますが、団体は変わっていません。昨年度の九州ブロック大会の代表権獲得数は例年より多かったことから、昨年度とかわらないチーム状況にあると判断されます。

昨年度並みの力はあると考えているところですが、一番大切なのはこれからです。48ページをお開きください。

今後は、指標となる大会ごとにPDCAを働かせ、検証を行い、必要な強化策を随時行ってまいります。

以上で説明を終わります。

(広瀬議長が競技力向上についてボート協会の桑野理事とフェンシング協会の佐藤理事に意見を求めた。)

桑野理事

ボート協会の理事長をさせて頂いている桑野でございます。宜しく願い申し上げます。

皆様方の参考になるかどうか分かりませんが、大分県ボート協会の競技力のほうを見てみると、20年前まで国体で点を取れるような団体では全くありませんでした。そういった中で県の体育保健課の皆様、体育協会の方々とお話をする機会を設けていただき、高校生の強化の大切さ、そして高校生が卒業して大学に進学した者をそれぞれふるさと選手として使っていくということの大切さのお話をさせて頂き、この部分のご理解いただき、20数年前に優秀な指導者を確保していただきました。そして今その指導者の下で選手が常に高いモチベーションを持って日々練習に取り組んでいます。国体に向けて即チームを組むのではなくて、早い時期から選抜チームを結成し、様々な大会に参加させる、そしてそこでレースの厳しさと勝ったときの喜び、こういったものを体験させることによって最終的に国体で勝つといった目標を達成していく、というふうな格好でやらせていただいています。

また、これまでの競技成績等を分析してみると、やはり核になる選手、高校生であれば林真奈美、それから昨年的大门、こういった選手がいた年というのはその選手だけじゃなく、他の高校生もそれに引っ張られて非常に少年の部で高得点を獲得しております。そういったことがあるため、これからも引き続きこういった核になる選手の育成・強化を続けていかなければと考えております。それと同時に、その選手だけでは、団体競技であり、勝てないので他の選手の獲得、これについても今高校生の活動現場が福岡県境のダム湖でやっているため非常に一般の方が目にするのが少ない。特に中学生等は目にする機会がほとんど無いということで、この四月から中学生のボート教室を始めて中学生にボート競技を紹介をしていく、そして高校に入ったらボートを続けていただけるような選手の育成、このようなものに取り組んでおります。その成果が出てくるのはこの数年後になるかとは思いますが、そういった形で取り組んでおります。協力のほうを宜しく願い申し上げます。以上です。

佐藤理事

佐藤です。いつもご支援、感謝申し上げます。まずフェンシング競技は協会員100名程度の弱小団体であります。しかしながら、皆さん非常に高いモチベーションを持っており、日々の練習に取り組んでいます。フェンシングは4種目ございます。しかしストレートに国体にいけるのは成年男子だけであって、残りの成年女子、少年男女についてはブロックを通過しないと本国体に行けません。まずは、全種目をブロック通過させるのを大上段に頑張っている次第でございます。そして得点をいくら稼ぐかと言うのを設定して頑張っております。

そしてそのためにはまず第一が、監督をまず決めています。選手が決まってから監督を決めるようでは遅いです。よって監督をまず決めています。その次に九州ブロック大会の全種別通過を目標にしています。その中で各種別何点とるのかと言うのを大上段に掲げています。しかしながら、相手のある競技であって、絶対がありません。確証はあっても絶対はございませんので毎回薄氷を踏む思いで頑張っております。

それに加えて2020年でございます。東京オリンピックのキャンプ地を目標にして昨年度から大分市、日田市を中心にキャンプ誘致のためにワールドカップのキャンプを実施しているところでございます。この世界の強豪国と大分子ども達と一緒に練習できるというのは一つの強みでもありまして、小さな県でもやれば絶対日本一になれるというのを自負しております。弱小団体であるので失うものは何もありません。マグロと一緒に動いておかないと死んでしまいます。そのつもりで強化をがんばっているのです。これからもご支援のほど宜しく願い申し上げます。

(広瀬議長が競技力向上について、なぎなた協会の渡邊理事に意見を求めた。)

渡邊理事

永松前理事長がお亡くなりになった後、更にわれわれも弱小というか細々とやってきたつもりであります。女性が多い中で活動しておりますが、少数精鋭で日々努力しておりますが、重なる部分があります。ジュニアの育成のほうは、私もジュニアの指導者として活動してきましたがその後の指導者の育成とジュニアの子供たちと育成を進めています。ただ少子化の問題もあり裾野を広げると言った意味でも、全体の子供も達の運動離れや、その子供も達を移入させる取り組み等をボート競技の方も仰っていましたが、体験の活動を沢山入れていかなければと選手層を増やすと言う意味ではもっともっと課題であろうと考えています。また指導者の育成の話をさせていただくと、私、今年小学生の指導者を経験しましたが高校生とジュニア層の指導者の数がかなり少ないため、その点についても私達連盟としても指導者をつくるといった形で同時進行で進めて参りたいと考えております。

《その他質疑応答なし》

6 その他

- (1)第37回九州ブロック大会、第72回国民体育大会日程・会場地について
- (2)第37回九州ブロック大会及び第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」に係る調査票について
- (3)第70回大分県民体育大会の日程・会場地について
- (4)第65回大分県高等学校総合体育大会の日程・会場地について
- (5)第55回大分県中学校総合体育大会の日程・会場地について
- (6)加盟団体主催イベントに係る賠償責任保険について
- (7)平成29年度賛助会員について

以下、佐保事務局長の説明。

それでは御説明いたします。まず、(1)の第37回九州ブロック大会・第72回国民体育大会の日程・会場地についてですが、別冊A4縦版の資料1ページから3ページが長崎県で開催されます第37回九州ブロック大会の日程及び会場一覧です。4ページ、5ページは第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」の大会日程と会場一覧です。詳細につきましては後刻御確認ください。

次に(2)の第37回九州ブロック大会・第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」に係る調査についてでございます。別に配付させていただきました調査票をご覧ください。第37回九州ブロック大会・第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」の会期を記載しておりますので、先程ご覧いただきました競技日程等を参考にされ、対応が可能な日に○印をつけていただきまして、恐れ入りますが事務局まで御提出くださいますようお願いいたします。

(3)第70回大分県民体育大会の日程・会場地についてでございますが、6ページをご覧ください。6月8日に開催される第1回実行委員会で正式に決定される予定ですが、本年度は別枠ブロックを中心に9月9日・10日を主日程として開催されることとなっているため、御確認ください。

次に、(4)第65回大分県高等学校総合体育大会の日程・会場地についてですが、7ページをご覧ください。本日は蓑田高体連会長が出席されているため、これについては蓑田会長からご説明申し上げます。

菘田理事

高体連会長の菘田です。先ほどの強化のところでは手を挙げず大変申し訳ありませんでした。昨年度はインターハイが非常に調子がよかったため国体についてもそのままその成績でいってくれるものと考えていましたが、やはり気の緩みがあったと反省しているところでもあります。38位という成績は誰もが悔しい思いをしたとそう思います。高体連としても今年はリベンジするという決意の元全員で頑張っていこうと考えています。高体連の色々な会議でも最初に国体の話をさせていただいてモチベーションをあげながら引き続きチーム大分の原動力となれるよう頑張っていきたいと考えていますので、ここでお約束させていただきたいと思います。

それでは資料の7ページをご覧ください。第65回の高体連総体の名簿であります。主日程としては6月3日から6月5日の3日間が主日程でありまして、その他会期の日程上どうしても三日間で終わらない競技については7競技であるが会期前に開催しようと考えています。6月2日には総合開会式を大分市営陸上競技場で開催するようにしています。役員の皆様方にはご案内させていただきたいと考えていますので、お時間ございましたら是非来ていただきたいと、そして高校生が頑張る姿を是非見ていただきたいとそう思っています。6月2日に関しては10時5分から公開演技、10時30分から開会式となっているため何卒宜しく願いいたします。この大会が全国につながる予選でもあり、高校生は一生懸命頑張ると思っています。何卒よろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。次に、(5)第55回大分県中学校総合体育大会の日程・会場地についてですが、8ページをご覧ください。本日は櫻井康弘中体連会長にお越しいただいておりますので、櫻井会長からご説明宜しく願い致します。

櫻井理事

中体連会長の櫻井です。宜しくお願い申し上げます。第55回大分県中学校総合体育大会、7月25日のサッカー競技を先行開催として、26日に市営陸上競技場で開会式を実施します。4市26会場で開催します。監督・選手、計約6300名の参加する大会となります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。今日は資料を準備しておりませんがこの県大会に続き8月の最初のほうに九州大会がございます。九州大会本県開催競技、別府市営プールにおいて水泳競技、それから県立総合体育館において剣道競技を実施する予定です。更に今年度は全国中学校体育大会が九州ブロックということで、本県では宇佐市総合運動場・相撲場において相撲競技、別府アリーナにおいて卓球競技を実施します。この全国中学校体育大会のシンボルマークというものがございますが、それを作成したのが日出町立日出中学校3年生のミヤガワアユさんというの方が作成したマークが見事選ばれ、ポスターや、Tシャツ等に印刷をされております。全国から来た子ども達が大分に来て良かったと言えるような大会作りをしようと考えています。どうぞ協力をお願い申し上げます。以上です。

ありがとうございました。次に、(6)加盟団体主催イベントに係る賠償責任保険について説明いたします。9ページをお開きください。

この資料は、本年度の賠償責任保険について加入希望を集約したものです。この保険は、主催者に賠償責任が発生した場合の備えとなるものです。なおこの保険はあくまでの任意ですので、決して強制するものではありません。平成29年度の状況につきましてここで御報告いたします。詳細につきましては後刻御確認ください。

最後に(7)平成29年度賛助会員についてのお願いでございます。賛助会員制度につきましては、平成22年度から取り組みをはじめ、これまで本会の運営に有効に活用させていただいているところで、これまでの御協力にこの場を借りまして、厚くお礼申し上げます。

本会の財務状況は、大変厳しい状況が続いております。昨年度の賛助会費総額は前年度を若干上回りました。本年度も皆様方の御理解を得まして、賛助会員の拡充を図って参りたいと考えております。

本日は小封筒入りの趣意書等を関係の皆様へ配付させていただいております。何卒、趣旨を御理解の上、本年度も御協力くださいますよう切にお願い申し上げますとともに、周囲の方々にも賛助会員の輪を拡げてくださいますよう併せてお願い申し上げます。

以上でその他の説明を終わります

《その他質疑応答なし》

7 閉会のことば 伊藤総務部長が閉会のことばを述べた。

平成29年5月11日

会 長 広 瀬 勝 貞

副会長 工 藤 利 明

監 事 鍵 矢 栄 典

監 事 工 藤 哲 郎

監 事 矢 部 正 秋